

■ 日程表

開催日	時間帯	講師名	役職等	テーマ
10/21(火)	18:00~19:30	井上 正也	香川大学法学部 准教授	日本の領土紛争を考える —北方領土・尖閣諸島・竹島—
10/28(火)	18:00~19:30	荒木 洋光 藤岡 英里	元三井物産本店 監査役室長/ フリーアナウンサー	元商社マンのWONDER × 現役女子アナのCHALLENGE
10/30(木)	18:00~19:30	渡邊 史郎	香川大学教育学部 准教授	とじこめられて —近代日本の閉鎖空間の文学—
11/13(木)	18:00~19:30	山田 恒夫	放送大学教授	実践的MOOC(ムーク)論 —自分の能力を高めキャリア形成に生かす—
11/17(月)	18:00~19:30	板野 俊文	香川大学副学長	非常の人 平賀源内
11/28(金)	18:00~19:30	何森 健	香川大学特任教授	「希少糖」 —落ち穂拾い的研究から生まれた—
12/18(木)	18:00~19:30	石塚 正秀	香川大学工学部 准教授	地球環境の変化について考える ~IPCC第5次評価報告書を読み解く~
12/22(月)	18:00~19:30	藻谷 浩介	(株)日本総合研究所 調査部 主任研究員	瀬戸内地域の活性化と地(知)の 拠点としての香川大学の進むべき道

会場：OLIVE SQUARE2F 多目的ホール (11月13日については情報センター1F PCルーム1、2)



お問合せ先・担当窓口

国立大学法人香川大学 教育・学生支援室修学支援グループ(研究交流棟1F) 担当:濱崎

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 TEL:(087)832-1151 FAX:(087)832-1155

E-mail:sogaksen@jim.ao.kagawa-u.ac.jp URL:http://www.kagawa-u.ac.jp

■ 申込方法

必要事項①~④を上記のE-mailへ送信するか、直接担当窓口で申し込んで下さい。

当日参加も可能です。

[必要事項]

①参加希望日 ②学部・学科 ③学籍番号 ④氏 名

※当日参加可能ですが、配付資料準備のため、できるだけ事前に申し込みをお願いします。

※申し込みいただいた個人情報は、本セミナーでのみ使用し、これ以外の目的で使用することはありません。

※本セミナーは香川大学学生を主対象としていますが、教職員・学外の希望者も参加できます。

もう一步先の学びへ

香川大学 アドバンスト・ セミナー

■ 開催日時

10月21日~12月22日
月~金 18:00~19:30

※詳細は裏面参照のこと。

■ 場所

OLIVE SQUARE 2F
多目的ホール

(11月13日については情報センター1F PCルーム1、2)

~アドバンスト・セミナーってなに?~

大学の学びは、最先端の研究の現場、リアルタイムな社会問題の現場を舞台として、学生のみなさんが教員とともに考えることによって成立します。みなさんに、こういった舞台で活躍する方々の取り組みにもっと間近で触れてほしい、その原動力となる熱意を感じ取ってほしい、そして「大学で学んでこんなに面白いんだ!」と実感してほしい—— アドバンスト・セミナーは、長尾学長のそんな思いから開講されることになった正課外の講座です。講座では、様々な分野で活躍される学内・学外のトップクラスの方々に講師を迎え、講師と参加者との双方向のやり取りが行われます。アドバンスト・セミナーは、みなさんがこれまでの学びを越えて「もう一步先へ」と歩んでいくための道しるべです。



長尾 省吾 学長



■ 講演日程・テーマ・講師プロフィール

10月21日(水) 18:00～19:30

『日本の領土紛争を考える ―北方領土・尖閣諸島・竹島』

井上 正也 准教授

■プロフィール 香川大学法学部准教授

近年、領土問題をめぐり日本と近隣諸国との緊張が高まっている。韓国との竹島、中国との尖閣諸島の領有権をめぐる紛争は、互いの国民の反感感情も重なって両国関係を悪化させる原因となった。また安倍政権はロシアとの平和条約交渉を進めているが、ここでも北方領土問題の解決が大きな課題である。この講義では、第二次世界大戦後の日本の外交を振り返りながら、なぜ領土問題が起こり、解決が難しいのかという点を受講生と一緒に考えていきたい。

10月28日(水) 18:00～19:30

『元商社マンのWONDER × 現役女子アナのCHALLENGE』

荒木 洋光 氏 / 藤岡 英里 氏

■プロフィール 元三井物産本店監査役室長 / フリーアナウンサー

WONDER：少子高齢化・人口減少・中東の混乱・タイ国のクーデター・国家安全保障・経済のグローバル化、等々を観るに人間とは？国家とは？民主主義とは？とWONDERをつき進めると、教養課程の科目だった哲学・歴史・社会科学・外国語等の科目の必要性に気付く。

CHALLENGE：地元企業の会社員から、未経験・29歳でNHK高松局に新人として採用される。32歳で上京。大学卒業から数々の泣き笑いを経て、在京フリーアナとして活動するまでの奮闘記。その原動力とは？

この二人が何故今回一緒に講座を持つに至ったか？

10月30日(金) 18:00～19:30

『とじこめられて ―近代日本の閉鎖空間の文学』

渡邊 史郎 准教授

■プロフィール 香川大学教育学部准教授

閉鎖空間は文学の舞台である。悪者によって幽閉された者、自ら岩を掘り進んだもの、閉じ込められていることに気づかない者、愛する者を背負って地下水道を進む者、伏魔殿、ただ穴が好きだった者、おまえと俺の愛の泥沼など……。これらに対し、「閉じてないで外部に開かれたほにゃららを…」とか口走るのは馬鹿だけである。プラトンの「洞窟」の比喩、「巖窟王」、「噫無情」、島崎藤村「家」、井伏鱒二「幽閉」、芥川龍之介「河童」、埴谷雄高「洞窟」、安部公房「方舟さくら丸」、「密会」、等々の読解から、現在の我々を照らす積極的な何かを導き出すのが本講義のテーマである。

11月13日(土) 18:00～19:30

『実践的MOOC(ムーク)論 ―自分の能力を高めキャリア形成に生かす―』

山田 恒夫 教授

■プロフィール 放送大学教授

新たな高等教育や生涯学習の担い手として注目を浴びている「MOOC(ムーク、Massive Online Open Course、大規模公開オンラインコース)」について解説します。

特に、今後の就職や能力開発にどのように利用できるか考えます。

※本セミナーは幸町南キャンパス総合情報センター1階PCルームで実施します。BYOD(Bring Your Own Device)型の研修ですので、自分のラップトップコンピュータやモバイル端末を持って参加してください(事前にインターネットに接続できるように設定ください)。ただし、スマートフォンは画面が小さくて推奨できません。なお、これらの機器を持っていなくてもPCルームのパソコンを利用することができますのでセミナーを受講することができます。

11月17日(日) 18:00～19:30

『非常の人 平賀源内』

板野 俊文 副学長

■プロフィール 香川大学副学長

平賀源内は享保13年(1728年)に生まれ、安永8年12月18日に獄死した。その紹介によれば、江戸時代中頃に活躍した本草学者、地質学者、蘭学者、医者、殖産事業家(又は山師)、戯作者、浄瑠璃作者、蘭画家、発明家とあり、各方面に異才を発揮した。現在の香川県さぬき市志度の出身。郷土出身の天才の生涯を概説し、「非常の人」と称した杉田玄白や「解体新書」との関連についても、知見を紹介する。

11月28日(金) 18:00～19:30

『「希少糖」―落ち穂拾い的研究から生まれた―』

何森 健 特任教授

■プロフィール 香川大学特任教授

希少糖は「希少価値がある糖」ではない。地球上での存在量が少ないという意味であり、その価値に関係なく定義されている。地方大学での落ち穂拾い研究から生まれた希少糖について、一研究者から見た魅力や価値等を紹介したい。

12月18日(木) 18:00～19:30

『地球環境の変化について考える ～IPCC第5次評価報告書を読み解く～』

石塚 正秀 准教授

■プロフィール 香川大学工学部准教授

本セミナーでは、地球温暖化、異常気象などの地球環境の変化について取り上げます。世界中の様々な場所で、地球環境の観測が行われており、同時に数値シミュレーションによる将来予測が行われています。これらの成果をもとに、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)は、現在、新しい報告書を作成しています。この最新の研究成果がまとめられた報告書を読み解きながら、気候変動に対する「自然科学的根拠」だけでなく、気候変動が与える「影響・適応・脆弱性」、それに基づく「緩和」といった、人が取るべき行動についても考えます。また、数値シミュレーションによる気象予測技術の一例として、みなさんがよく耳にする「天気予報」の精度について、シミュレーション技術の最新状況を紹介します。

12月22日(日) 18:00～19:30

『瀬戸内地域の活性化と地(知)の拠点としての香川大学の進むべき道』

藻谷 浩介 氏

■プロフィール (株)日本総合研究所 調査部 主任研究員

香川大学は、文部科学省から「自治体連携による瀬戸内地域の活性化と地(知)の拠点整備」で助成金を受けて積極的に取組みを行っているが、今後、瀬戸内地域の活性化、四国の活性化において、どのような方向を志向しながら進めばよいのかを提案したい。

さらに、瀬戸内地域の活性化、四国の活性化において、地(知)の拠点として、地方国立大学としての香川大学はどのようなパフォーマンスをすべきかを教育、研究、地域貢献の観点からも助言したい。

